

# 平日夜間・日曜 初期救急診療がはじまって

笠間市を含む医療提供体制の地域単位である水戸保健医療圏では、軽症である初期救急患者の増加により、県立中央病院などの二次救急医療機関の疲弊が大きな課題となっていました。

## ■笠間市立病院

### 平日夜間・日曜初期救急診療

入院や手術が必要な重症患者への診療を目的とした二次救急医療機関である県立中央病院に、軽症の初期救急患者が数多く受診することによって、重症患者への診療に支障がでていました。

そこで、笠間市は市立病院内において、笠間市医師会、県薬剤師会笠間支部、県立中央病院の協力のもと、年末年始を除く月曜から金曜までの平日夜の7時から10時までと、毎週日曜日の9時から夕方5時までの時間帯で初期救急診療を今年の4月1日から実施しています。

## ■初期救急診療の現状

市立病院の初期救急診療は、未だ多くの市民の皆さんに認知していただけていないとも思われ、来院され



る患者が少ない状況にあります。

今後は、この初期救急診療を、継続してお知らせするとともに、市民の皆さんが受診するにあたっての注意事項などについても、さらなる周知を行います。

さらに、かぜやインフルエンザなどの患者が増加する冬場に向けた体制の検討・整備や医師会をはじめとする協力関係機関の皆様との連携を

深め、公立病院として市民の皆さんに安心して受診していただける環境を整えます。

## ■市立病院の課題

平成21年3月に策定した笠間市立病院改革プランでは、市立病院の役割として、

- ①高齢者の在宅医療を支援する
- ②回復期・亜急性期患者の入院加療
- ③保健予防・介護予防活動

の3つを掲げ改革に取り組んでいるところですが、さらに民間医療機関が休診している休日や夜間に初期救急診療を行うという大きな役割を担い、市民の皆さんへ診療を行っていただきます。

しかしながら、全国の公立病院が厳しい経営状況に陥っている最大の要因である医師不足は、市立病院でも同様であり、常勤医師が2名で病院としての必要数の3名を満たしていないという恒常的な医師不足の状態となっています。

今後の市立病院は、前に掲げた公立病院としての役割を果たし、市民の皆さんが安心して医療を受けられる環境を整えるためにも、最重要課題である医師の招へいを早急に実現し、笠間市医師会、県薬剤師会笠間

支部、県立中央病院などの地域の医療関係者と協力し、地域医療の充実に取り組みます。

## ■平日夜間・日曜初期救急診療の利用状況

4月から6月までの患者数は左グラフのような状況で夜間は平均3名、日曜日は平均30名程度です。今はインフルエンザ、風邪の季節も終わり、患者数が一番少ない時期と言われています。

日曜日は、昼前の11時過ぎと夕方4時過ぎに来院者が集中し、待ち時間が長くなることが多いようです。診察が集中しないよう、早めに(午前11時頃までに、夕方は4時頃までに)ご来院いただければ幸いです。

平日夜間患者数と日曜昼間患者数

